

遠TONE音

Autumn CONCERT

in OBIHIRO 2023

北海道音楽

～心の原風景が見えてくる～

2023.10.3 TUE

とかちプラザ
TORACHI PLAZA

RAINBOW HALL
レインボーホール

開場 18:30
開演 19:00

入場料
一般 3,000円(税込) **〈全席自由席〉** 当日券は各500円増し
※未就学児は親子室をご案内いたします。



チケット取り扱い

・とかちプラザ	帯広市西4南13	0155-22-7890	・TSUTAYA西帯店	帯広市西21南3	0155-36-1100
・帯広旭楽器商会	帯広市西7南17	0155-23-4184	・TSUTAYA木野店	音更町木野大通西12	0155-31-8835
・チケットらいぶ	帯広市西5条南11丁目48	0155-23-8111	・図書帯広イーストモール店	帯広市東4条南16丁目	0155-28-3728

主催 とかちプラザ 指定管理者 株式会社オカモト

共催 とかちプラザコンサート委員会

協力 とかち芸術文化振興機構

後援 帯広市・帯広市教育委員会・十勝圏複合事務組合・十勝毎日新聞社・北海道新聞帯広支社

Program

演目



第一部

と ち ち 野 紀 行

十勝野・星のふるさと・樹もれ日・はるにれの木
etc

第二部

故郷の風～空と大地と～

石狩川・竹田の子守歌・遠野・故郷
etc

遠TONE音

生まれ育った故郷「北海道」をテーマとした、三塚 幸彦、小野 美穂子、曾山 良一の3人グループ「遠tone音」(とおね)。
日本古来の楽器である「尺八」「箏」に、「ギター」の組み合わせながら、邦楽器が現代に調和した、優しく、そしてどこか懐かしい「癒しの音楽」を聴くことが出来ます。1988年、遠音初のオリジナル曲「地球岬」の札幌交響楽団との競演が事実上のデビューとなり、91年には十勝圏複合事務組合初めての文化事業として、十勝管内6カ所のコンサートツアーや、札幌ユニバーシアード閉会式の音楽を担当するなど、道内の各種イベントへの参加やマスコミへの登場が頻繁になりました。94年には十勝圏複合事務組合より「十勝音の大使」に任命され、学校音楽教育の一環としてのコンサートや、各種施設でのコンサートも積極的に行うようになりました。

「遠TONE音」というグループ名の由来は、「良い音は遠くまで澄んで聞こえる」という意味の日本古くからの表現である「遠音」、そして音を意味する英語「TONE」、何故こんなに似ているのだろうか?という、驚きと不思議さからです。

Prohire 出演者プロフィール



三塚 幸彦 Yukihiko Mitsuka

専修大学経営学部経営学科卒業

16歳の頃、たまたま聴いた尺八の音色に感動、父の所有する尺八を隠れて吹いたのが尺八への第一歩。NHK邦楽オーディション三連続合格など、邦楽の世界でしばらく活動していたが、パイプオルガンの酒井多賀志氏、ウードのハムザエルディン氏、和太鼓の林英哲氏等との競演を契機に自らの魂を揺さぶる音楽を模索しはじめる。泉州尺八工房の創始者。遠音の全ての楽曲は泉州尺八工房の尺八が使われています。



小野 美穂子 Mihoko Ono

山口芸術短期大学音楽科卒業

幼少の頃より祖母、母から箏を習うが、ピアノに興味を持ち大学ではピアノを専攻、しかし自分の心に響いた楽器として、最終的に箏を自分の楽器として選択、いかなる場所においても自分の感情を忠実に再現する楽器を目指し、箏そのものの改良とエレクトリック化に力を注ぐ。



曾山 良一 Ryoichi Soyama

北海道総局鉄道学園卒業

在学中にバンド結成、音楽を札幌交響楽団コントラバス奏者の信田尚三氏に師事しながら、作曲とライブハウスなどでの演奏をする内に、北海道出身の歌手倉橋ルイ子のバックバンドとして東京に招聘され、6年間バックバンドのリーダーをつとめる。そのバンドにゲストとして出演した三塚、小野と出会う。

「1/f ゆらぎコンサート」について

とちちプラザ・レインボーホールを拠点として定期的を開催することにより、十勝に住むあらゆる人たちが音楽に積極的に関わり、親しみ、理解するための環境醸成を目的としたコンサートです。